

堂谷津の里 自然だより

2022年10月

2022. 10. 15

涼しくなって一気に秋本番となりました。里は、産卵のために山から戻ってきたアキアカネ、顔まで赤くなったナツアカネ、ノシメトンボなどアカトンボの仲間のにぎわっています。間もなく収穫祭、一年の活動で得た実りをみんなで味わい楽しめます。

野路に咲く キクのなかま



ユウガギク



シロヨメナ



ノコンギク



カントウヨメナ



シラヤマギク



11月中旬

リュウノウギク



ヤクソウ

秋を彩る野草が咲いています

林内・湿地に 咲く野草



イズショウマ



サラシナショウマ



ツリフネソウ



サクラタデ



ミゾソバ

赤くなりました！！



ノシメトンボ



ナツアカネ

<季節メモ> 里山の秋 野菊咲く

白や薄紫色の野菊が咲き、静かに秋の訪れを知らせています。「ノギク」という植物があるわけではありません。庭先に咲く中国からの栽培種の「菊」に対して、野に自生するキク科の植物を野菊と呼びます。堂谷津の里では、ユウガギク、シラヤマギク、シロヨメナ、カントウヨメナ、ノコンギク、リュウノウギクなどの野菊が自生しています。上の写真を見るとどの花も同じような形をしています。何となく雰囲気の違いを感じられます。

野菊をとりあげた文学作品といえば、伊藤佐千夫の「野菊の墓」があります。登場する野菊はどれだろうと話題になりましたが決定的な決め手はなく、あえて「野菊」と表現しているのがいいということに・・・。民子を野菊にたとえることで民子のイメージを鮮明に、また野菊もまた民子のイメージをまもって美しく読み手の心に残っていくのでしょうか。

写真・編集：晝間

